スカパーJSAT グループ 2025 年度番組審議会（議事要旨）

（スカパーJSAT 第 42 回、スカパー・エンターテイメント第 36 回）

開催年月日：2026 年 3 月 6 日（金）

開催場所：スカパーJSAT 株式会社 役員会議室

出席者
（審議委員）
委員数：7 名 /出席委員数： 5 名（欠席委員：山本 浩二 委員、マッコイ 斉藤 委員）
審議委員長：髙畑 文雄
委　　員：二宮 清純
委　　員：田中 里沙
委　　員：安田 洋祐
委　　員：草野 満代

（スカパーJSAT グループ）
中川 大介 ：スカパーJSAT(株) 取締役 執行役員常務 メディア事業部門長
堀 智一 ：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部長
兼(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長
加藤 大 ：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部長
早出 真知子：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部 編成制作チーム

（報告者）
浅田 裕海：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部 編成制作チーム
堀 智一 ：（株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

（事務局）
浅田 裕海：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ事業部 編成制作チーム
齋藤 收： 同 コンテンツ事業部 編成制作チーム

＜番組審議＞
審議番組 『鷹 BAKA 軍団』
報告者：浅田 裕海

◆放送・配信概要
プロ野球シーズン期間（3 月～10 月）に毎週日曜日放送・配信
放送チャンネル：スポーツライブプラス ※福岡ソフトバンクホークス公式戦全試合放送のチャンネル
配信：鷹 BAKA 軍団 公式 YouTube

◆番組概要

『鷹 BAKA 軍団』は、福岡ソフトバンクホークスに強い愛情を持つ“通称・鷹 BAKA”たちが集い、独自の視点と発想による企画を通して、ホークスの魅力を『人』にフォーカスして伝えるスポーツバラエティ番組である。試合結果や順位といった速報性・競技性を中心とした構成ではなく、選手、OB、監督・コーチ、スタッフなど、チームを支える人々の素顔や関係性、舞台裏、知られざるエピソードを掘り下げることで、試合中継だけでは見えにくいホークスの魅力をエンターテインメントとして届けることを目的としている。

【出演者】

カンニング竹山、ひぐち君（髭男爵）、松田実桜、森福允彦（ホークス OB）ほか

◆番組審議会の放送回について

番組審議会では、史上初となる福岡ソフトバンクホークス 3 軍の四国バス遠征に密着した取材回を審議対象とした。本企画は、これまで可視化される機会の少なかった 3 軍選手およびスタッフの遠征実態を伝えることを目的として立案された。企画立案のきっかけは、番組内での斉藤監督との対話であり、そのやり取りを通じて取材の必要性や意義が具体化した。その後、球団広報と継続的な調整を重ね、斉藤監督の理解と後押しを得たことで、密着取材の実施に至った。

◆番組企画意図

近年の野球番組は、試合結果や順位、速報性に価値が依存しやすく、シーズンやチーム成績によって視聴需要が大きく変動するという課題を抱えている。また、野球コンテンツ全体としてコアファン向けの専門的な内容に偏りがちであり、ライト層や新規層への訴求が限定的となっている。こうした背景を踏まえ、本番組では試合結果に左右されない『人』を軸としたエンターテインメント型コンテンツを通じて、通年で価値を発揮する番組の確立を目指している。

◆審議委員からのご意見

- これまで光が当たりにくかったホークス 3 軍の遠征や育成現場に密着した点は新鮮であり、球団組織の厚みや育成に対する姿勢が具体的に伝わる内容であった。野球ファンに限らず、スポーツに詳しくない視聴者にとっても興味を持ちやすいテーマ設定である。
- 試合結果や勝敗に依存せず、選手・監督・コーチ・スタッフといった「人」に焦点を当てた構成により、シーズン状況に左右されない番組価値を生み出している点が評価できる。特に、3 軍という厳しい環境の中で奮闘する姿は、共感や応援したい気持ちを喚起する内容となっていた。
- カンニング竹山氏の進行は、選手やスタッフに対するリスペクトが感じられ、バラエティ色を持ちながらも過度に軽くなりすぎない、心地よい番組トーンを保っていた。年長者としての視点からの言葉が、若い選手へのメッセージとして自然に伝わっていた点も好印象であった。
- バス移動や食事、宿泊といった日常の描写を通じて、選手たちの人となりや距離感が伝わり、家族で視聴しても楽しめる親しみやすさがあった。野球に詳しくない視聴者でも、無理なく番組世界に入り込める構成であった。
- スポーツライブ＋での放送に加え、YouTube 配信を組み合わせた展開については、有料放送の価値を損なうものではなく、全国への認知拡大や入口づくりとして有効であるとの意見があった。
- 3 軍・4 軍、独立リーグとの関係性、育成選手の立ち位置など、制度的な背景が分かりにくい部分があり、

野球に詳しくない視聴者にとっては理解が追いつかない場面もあった。テロップや簡潔な補足説明があると、より理解しやすくなるのではないかとの意見があった。

- 遠征やバス移動といった過酷な環境が持つドラマ性について、比較的穏やかな描写にとどまっており、選手が置かれている厳しい立場や「はい上がろうとする切実さ」が、もう一歩踏み込んで描かれると、より深みのある内容になるとの指摘があった。
- 監督やコーチのコメントが中心となる場面が多く、若手選手一人ひとりの思いや覚悟、将来への不安や目標といった部分を、もう少し引き出せると、視聴者の感情移入がさらに高まるのではないかとの意見があった。
- 今回の 3 軍密着企画を起点に、2 軍や育成制度全体へと視野を広げたテーマ展開も期待したい。継続的に視聴することで、ホークスという球団を立体的に理解できる番組へと発展する可能性を感じた。

＜まとめ＞

委員からは、番組の独自性や継続性を評価する声が寄せられた一方、育成に関わる制度的背景の説明や、選手個々の立場に踏み込んだ描写について改善の余地があるとの意見があった。

これらの意見を今後の番組制作に活かし、より多くの視聴者に親しまれる番組づくりに努めていく。

＜報告事項＞

スカパー・エンターテイメントの番組審議について

報告者：(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長　堀　智一

＜報告内容＞

（株）スカパー・エンターテイメントでは、衛星基幹放送事業者として、2K の 6 チャンネルを 110 度上で、また衛星一般放送事業者としてスカパー！プレミアムサービス計 131 チャンネルを運営している。

2019 年上期より内規・判断基準を明確化。LEVEL1「様子見」、LEVEL2「要注意」は対応不要、LEVEL3「要対応」に該当する場合には放送見合わせ等の対応を検討する運用基準を策定している。これらの基準については、自社制作番組のみならず、番組供給事業者に対しても説明・共有を行っている。

前回番組審議会後に対応した考査事例について報告。（2025 年 3 月以降 4 案件）

いずれも当該基準に基づき適切に判断・対応を行った。また、自主放送・配信番組についても 1 件の考査対応を実施している。

グループ内のコンプライアンス対応については、コンテンツ事業部において、番組および CM の考査を実施しており、案件発生時には、考査担当が対応案を作成し、関係部門と確認のうえ、総責任者が最終判断を行う体制としている。その後、番組供給事業者や権利元等と連携し、必要な対応を図っている。

また、自社制作による配信番組についても、同様の考査フローを適用し、適切な運営に努めている。

以上